

国立信州高遠青少年自然の家 実践研究事業

# 信州高遠サマーキャンプ

報告書

独立行政法人 国立青少年教育振興機構  
国立信州高遠青少年自然の家

## <はじめに>

本事業「信州高遠サマーキャンプ」は、南アルプス、中央アルプスに囲まれた豊かな自然環境の中で、長期自然体験活動を通して自然のすばらしさや偉大さを感じるとともに、仲間と協力して様々な活動に挑戦することで「学びに向かう力・人間性等」を育むことを目的として、令和3～5年に実施しました。

「学びに向かう力・人間性等」は平成29年告示の学習指導要領にて示され、非認知能力、社会情動的スキルとも呼ばれ現代的な課題を解決し、複雑で変化の激しい社会を生き抜くための力として、社会的にも注目が高まっています。当施設においては、施設を囲む雄大な自然を生きかしながら、どのようなプログラムを組み、どのような働きかけをすることでこの「学びに向かう力・人間性等」を高めることができるかを3年間追究してきました。

この報告書を手にとってくださった方にとって、「学びに向かう力・人間性等」の伸長について考えるきっかけとなれば幸いです。

## <目次>

事業概要・・・・・・・・・・	1～2	分析結果と考察・・・・・・・・	12～15
プログラムデザイン・・・・	3	活動意識の変容・・・・・・・・	16～18
日程・・・・・・・・・・	4～9	信州高遠サマーキャンプ	
事業の変遷・・・・・・・・・・	10	成果と課題・・・・・・・・	19
「学びに向かう力、人間性等」		おわりに・・・・・・・・・・	20
変化の分析方法・・・・・・・・	11		

# 事業概要

## 1. 事業の趣旨

自然体験活動を通して、自然のすばらしさや偉大さを感じるとともに、仲間と協力してさまざまな活動に挑戦することで、参加者の「学びに向かう力・人間性等」を育む機会とする。

## 2. 主催

独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立信州高遠青少年自然の家

## 3. 研究概要

### (1) 実践研究事業のテーマ

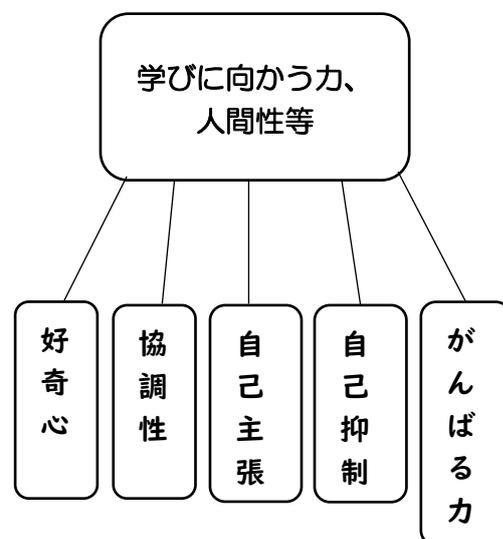
「学びに向かう力・人間性等を育成する体験活動」

### (2) 参加者の対象

小学5年生～中学生

### (3) 体験を通じて育てたい力

- ・主体的に学習に取り組む態度も含めた学びに向かう力
- ・自己の感情や行動を統制する力
- ・自らの思考のプロセス等を客観的に捉える力
- ・多様性を尊重する態度と互いのよさを生かして協働する力
- ・持続可能な社会づくりに向けた態度
- ・リーダーシップやチームワーク
- ・感性、優しさや思いやりなど、人間性等に関するもの



先行研究による分類等を参考にし、ここでは「学びに向かう力、人間性等」を「好奇心」「協調性」「自己主張」「自己抑制」「がんばる力」の5つとした。

### (4) 調査方法について

上記の5つの項目に対応する質問内容を、事前・事後・追跡と3回のアンケート調査を行い、変容を分析した。



アンケート調査記入の様子

### (5) 企画委員会委員

プログラム立案や報告書作成への助言、参加者への登山講義、参加者・保護者アンケートの分析などにおいてご尽力いただいた。

傘木 靖 氏（長野県山岳総合センター 所長）

瀧 直也 氏（国立大学法人信州大学 教育学部 准教授）

笹川 隆広 氏（南信州山岳ガイド）

#### 4. 各年度情報

##### 令和3年度

(1) 開催期間 令和3年8月6日(金)～10日(火) 4泊5日

(2) 参加者 班編成：3班(5名/1班)

	小5	小6	中1	中2	中3	計
男	4	2	2	0	0	8
女	2	3	1	1	0	7
計	6	5	3	1	0	15

(長野県1名、愛知県1名、岐阜県1名、京都府1名、岡山県1名)

(3) スタッフ

国立信州高遠自然の家職員 4名

法人ボランティア8名 (班付スタッフ：6名 本部スタッフ：2名)

登山ガイド1名(登山チャレンジ時)

##### 令和4年度

(1) 開催期間 令和4年8月6日(土)～12日(金) 6泊7日

(2) 参加者 班編成3班(5名/1班)

	小5	小6	中1	中2	中3	計
男	3	1	2	1	0	7
女	2	4	2	0	0	8
計	5	5	4	1	0	15

(長野県10名、愛知県4名、埼玉県1名)

(3) スタッフ

国立信州高遠自然の家職員 6名

法人ボランティア8名 (班付スタッフ：6名 本部スタッフ：2名)

##### 令和5年度

(1) 開催期間 令和5年8月5日(土)～11日(金) 6泊7日

(2) 参加者 班編成3班(6名/1班)

	小5	小6	中1	中2	中3	計
男	3	3	2	0	0	8
女	3	3	3	1	0	10
計	6	6	5	1	0	18

(長野県15名、富山県1名、東京都1名、神奈川県1名)

(3) スタッフ

国立信州高遠自然の家職員 5名

法人ボランティア8名 (班付スタッフ：6名 本部スタッフ：2名)

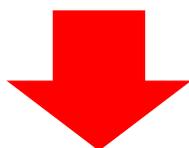
# プログラムデザイン

【4つのステージについて】

事業を「出会い」「協力」「挑戦」「旅立ち」の4ステージに大きく分け、各ステージのねらいを設定し、プログラムを体系的に実施することを意識した。

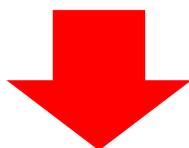
## 「出会い」 のステージ

- 初めて出会った仲間たちとの相互理解を深める。
- キャンプ中の個人目標を立て、仲間の目標を知ること、活動への意欲を高める。



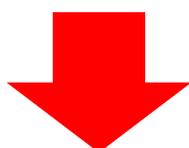
## 「協力」 のステージ

- 登山の基礎的な知識・技能、危機管理方法を身に付けさせ、3,000m級の山への登山の準備を進める。
- 話し合いや役割分担が必要な活動機会を意図して設定し、グループで活動するために意識や態度を養うとともに、自己有用感を高める。



## 「挑戦」 のステージ

- 3,000m級の登山に挑戦する中で、様々な困難を乗り越えた先の達成感を得ることで、自己肯定感を高める。
- 共に登山に挑戦する仲間の存在や互いの支えあいを通じて、仲間のよさを感じる。



## 「旅立ち」 のステージ

- キャンプを振り返り、最後までやり通した自分や頑張った自分を見つめ、成長を実感する。
- 「これからの自分」について考える。



# 令和3年度 信州高遠サマーキャンプ日程

開催期間：令和3年8月6日（金）

～10日（月）4泊5日

## 「出会い」のステージ

	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	22:00	
8月6日	金	受付	開会式	仲間づくり テント設営	夕食 【食堂】	入浴	休憩	登山 装認 備	1日の まとめ	就寝 準備	就寝 【テント泊】



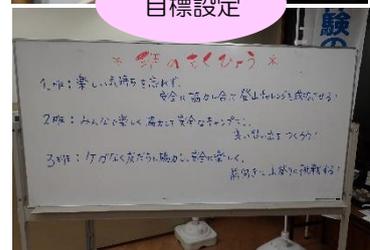
テント設営



仲間づくり



目標設定



## 「協力」のステージ

	6:00	7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	22:00
8月7日	土	起床	朝食 【野外 炊飯】 (カート ドック)	活動 準備	登山トレーニング 【守屋山登山】	休憩 荷物整理	夕食 【野外炊飯】 (焼ポトフ、カップヌードル炒飯)	入浴	登山講義 ～安全に登山を する為に～ 講師：鈴木謙氏 (長野県山岳 総合センター 所長)	1日の まとめ	就寝 準備	就寝 【テント泊】					



登山トレーニング



野外炊飯



登山講義



山頂でお弁当♪



## 「挑戦」のステージ

	5:00	6:00	7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	22:00
8月8日 日			起床	テント整理 朝食	活動準備	移動	登山チャレンジ1日目 しらび平バス停～千畳敷～木曽駒ヶ岳～天狗荘 【木曽駒ヶ岳登山】			休憩 (9日夜の野外炊飯 メニュー話し合い)	夕食 【山小屋食】 ※食事は西駒山荘	1日の まとめ	就寝準備	就寝 【天狗荘】				
8月9日 月		起床	朝食 【山小屋食】	活動準備	登山チャレンジ2日目 天狗荘～しらび平バス停 ※天候悪化のため下山のみ				入浴	移動 食材買い出し	夕食 【野外炊飯】 (オリジナルカレーライス、ケーキ)		1日の まとめ	就寝準備	就寝 【テント泊】			

木曽駒ヶ岳登頂!

危険箇所を共有しながら登りました

木曽駒ヶ岳登山

オリジナルカレー&ケーキ

## 「旅立ち」のステージ

	6:00	7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00
8月10日 火		起床	朝食 【食堂】	清掃 テント撤収 荷物整理	キャンプのまとめ		昼食 【食堂】	閉会式	解散	

キャンプのふり返し

閉会式・お別れ

# 令和4年度 信州高遠サマーキャンプ日程

開催期間：令和4年8月6日（土）

～12日（金）6泊7日

## 「出会い」のステージ

	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	22:00	
8月6日	土	受付	開会式	テント設営	仲間づくり	夕食【食堂】	入浴	グループ活動 ・個人目標設定 ・班の目標設定	1日のまとめ	就寝準備	就寝【テント泊】

出会い



テント設営



仲間づくり



夕食



開会式



## 「協力」のステージ

	6:00	7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	22:00
8月7日	日	起床	朝食【野外炊飯】	準備	移動 板山 露頭見学 【板山露頭】	岩石採集 【伊那市長谷】	昼食 【弁当】	移動	カヌー体験・溝口露頭見学 【美和湖】	移動	夕食【食堂】	入浴	1日のまとめ グループ活動	就寝準備	就寝		
8月8日	月	起床	朝食【食堂】	活動準備	移動	登山トレーニング 【守屋山登山】			移動	休憩 洗濯タイム	夕食【野外炊飯】	入浴	1日のまとめ グループ活動	就寝準備	就寝		
8月9日	火	起床	朝食【食堂】	活動準備 自由時間	登山講義 ～安全に登山をするために～ 講師：森本 隆 氏 （長野県山岳総合センター所長）			昼食【野外炊飯】	魚のつかみ取り・調理 【施設内】		夕食【野外炊飯】	入浴	1日のまとめ	就寝準備	就寝		

登山トレーニング



ジオパーク学習（露頭見学）



カヌー体験



休憩（手作りアイス）



登山講義



魚のつかみ取り



## 「挑戦」のステージ

	5:00	6:00	7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	22:00		
8月10日 水		起床	活動準備	移動 自然の家 ～仙流荘	休憩 朝食 (弁当)	移動 仙流荘～北沢峠 【林道バス】	登山チャレンジ 1日目 北沢峠～小仙丈岳(昼食)～仙丈小屋 ～仙丈ヶ岳山頂～仙丈小屋 【仙丈ヶ岳登山】						夕食 【仙丈小屋】	1日の まとめ	就寝準備	就寝 【仙丈小屋】				
8月11日 木	ご来光 ハイイク	朝食 【仙丈小屋】	登山チャレンジ 2日目 仙丈小屋～馬の背ヒュッテ ～北沢峠			移動 【林道バス】	入浴・昼食 【仙流荘】	移動	休憩	夕食 【野外炊飯】		焚火 1日のまとめ		就寝準備	就寝 【テント泊】					



仙丈ヶ岳登山

急登にもチャレンジ!



ご来光

下山も安全に



仙丈ヶ岳登頂!



焚火をしながらふり回り



## 「旅立ち」のステージ

	6:00	7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00
8月12日 金	起床	テント 撤収	朝食 【食堂】	清掃 荷物整理	キャンプのまとめ		昼食 【食堂】	閉会式	解散	



テント撤収



キャンプのふり回り



閉会式



# 令和5年度 信州高遠サマーキャンプ日程

開催期間：令和5年8月5日（土）

～11日（金）6泊7日

## 「出会い」のステージ

		13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	22:00
8月5日	土		受付 開会式	テント設営	仲間づくり	タバのつどい 夕食【食堂】	入浴	個人目標設定	1日のまとめ	就寝準備	就寝【テント泊】



開会式（自己紹介）



テント設営



タバのつどい（他団体との交流）



仲間づくり



アンケート記入

## 「協力」のステージ

		6:00	7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	22:00
8月6日	日	起床	朝の学習 朝のつどい	朝食【食堂】	活動準備 移動	登山トレーニング【守屋山登山】						夕食【野外炊飯】（タコライス）	入浴	登山講義 ～安全に登山をするために～ 講師：鈴木 謙 氏 （長野県山岳総合センター所長）	1日のまとめ	就寝準備	就寝【テント泊】	
8月7日	月	起床	朝の学習 朝のつどい	朝食【食堂】	班の登山目標設定 洗濯	クラフト【水ようかんの竹筒】 【水鉄砲】	昼食【野外炊飯】 （冷やし中華・水ようかん）	川遊び【施設内】	夕食【野外炊飯】 （炊き込みご飯・ホイル焼き）	入浴	ナイトウォーク 花火	1日のまとめ	就寝準備	就寝【テント泊】				

登山トレーニング



仙丈ヶ岳登山目標設定



川遊び



クラフト



花火



# 「挑戦」のステージ

	5:00	6:00	7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	22:00
8月8日 火		起床	朝の学習	朝のついで 朝食【食堂】	活動準備	登山装備パッキング 自由時間		昼食 (弁当)	活動準備	移動 自然の家～仙流荘	移動 仙流荘～北沢峠 【林道バス】	こもれば山荘 着 休憩	夕食 【山小屋食】	班の登山 目録確認	1日のまとめ	就寝準備		就寝 【こもれば山荘泊】
8月9日 水		起床	朝食【山小屋食】	登山準備	登山チャレンジ 1日目 こもれば山荘～小仙丈岳(昼食)～仙丈小屋 ～仙丈ヶ岳山頂～仙丈小屋 【仙丈ヶ岳登山】						休憩	夕食 【山小屋食】	1日のまとめ	就寝準備		就寝 【仙丈小屋泊】		
8月10日 木		起床・移動	ご来光ハイイク 朝食【山小屋食】	下山準備	登山チャレンジ 2日目 仙丈小屋～仙丈ヶ岳山頂～小仙丈岳 ～こもれば山荘 【仙丈ヶ岳登山】				昼食 【こもれば山荘】	移動 北沢峠～仙流荘 【林道バス】	入浴 【仙流荘】	移動 仙流荘～自然の家	休憩	夕食【野外炊飯】 (BBQ)		就寝準備	就寝 【テント泊】	



# 「旅立ち」のステージ

	6:00	7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00
8月11日 金	起床	朝の学習	朝のついで 朝食【食堂】	清掃 テント撤収 荷物整理	キャンプのまとめ		昼食【食堂】	閉会式	解散	



# 信州高遠サマーキャンプ 3年間の変遷

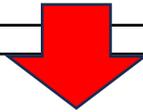


## 令和3年度

- 「学びに向かう力、人間性等」を育むことを目的に、事業を開始。
- 新型コロナウイルスの影響で、ウイルス対策に重点を置いて事業を計画。

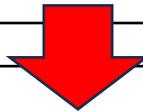


- ・日程を短縮し、4泊5日での実施
- ・参加者数は15人に絞り込む
- ・接触を減らすため、宿泊はテント泊
  - ロープウェイがあり、テントを持ち運びやすい、中央アルプス「木曾駒ヶ岳」を登山チャレンジのフィールドとした。
- ・アルコール消毒の徹底。
- 長野県山岳総合センター所長 傘木靖氏による、「登山講義」
  - 登山に必要な知識・技能の習得をねらった。
- 野外炊飯、テント泊、登山等の自然体験活動を充実させた。



## 令和4年度

- 令和3年度中、登山に不安を感じるボランティアがいた。
  - 1か月前に「スタッフトレーニング」を実施。知識・技能を習得。自信を付けるとともに、当日までの課題を確認した。
- 新型コロナウイルスの蔓延 → 7泊8日の予定を6泊7日に短縮し、テント泊を一人一張とした。
- メインプログラムである「登山チャレンジ」のフィールドを南アルプス「仙丈ヶ岳」とした。
- ジオパーク関連のプログラム（板山露頭見学、カヌーに乗って湖面からの溝口露頭見学、「中央構造線」についての学習、岩石標本作成）を実施 → 地域を知る機会とした。
- 4日目にリフレッシュタイム（休息日）を設置
  - 魚のつかみ取りや登山に向けてのパッキングの時間等を設け、登山トレーニングからの体力を回復させ、英気を養うことをねらった。



## 令和5年度

- 6泊7日とすることを継続 ← スタッフの体力の確保、データ収集に一貫性をもたせることが理由。
- 「登山チャレンジ」のフィールドは、引き続き仙丈ヶ岳とした。
- 登山トレーニングを行った2日目の夜に登山講義を設定した。
  - トレーニングで得た感覚や記憶が新しいうちに登山講義を受けることで、経験を伴った知識・技能の習得を目指した。
- 登山トレーニング翌日の3日目にリフレッシュタイム（休息日）を設定し、協力して行う活動（班の登山目標設定、野外炊飯、班での創作活動、川遊び、花火）を充実させた。
  - 登山に向けて互いを理解したり、班の結束力を高めたりすることをねらった。
- 令和4年度の登山チャレンジ中、高山病と思われる症状が見られた。また、山小屋への到着が予定よりも遅れた。
  - 4日目夜は、登山口近くの山小屋での山小屋泊とし、高地順応や体力回復、登山時間の確保をねらった。

# 「学びに向かう力、人間性等」変化の分析方法

「好奇心」「協調性」「自己主張」「自己抑制」「がんばる力」の5つの項目に対応するアンケート調査を、事前・事後・追跡（約1か月後）の3回行い、変容を分析した。

「信州高遠サマーキャンプ」事前アンケート【参加者用】  
名前： \_\_\_\_\_

本事業では、子どもの体験活動に関する調査研究を行うこととしています。参加者の現在の様子についてアンケートの回答をお願いします。  
キャンプ終了1ヶ月後の追跡アンケートのご協力をお願いします。  
5=よく当てはまる 4当てはまる 3=どちらともいえない 2=あまりない 1=ほとんどない

- ①新しいことにワクワクして取り組むことができる  
(5. 4. 3. 2. 1)
- ②反打ちと協力して取り組むことができる  
(5. 4. 3. 2. 1)
- ③自分が何をしたいかを言うことができる  
(5. 4. 3. 2. 1)
- ④人の話が終わるまで静かに聞くことができる  
(5. 4. 3. 2. 1)
- ⑤物事をあきらめずに挑戦することができる  
(5. 4. 3. 2. 1)
- ⑥好きなことに集中して取り組むことができる  
(5. 4. 3. 2. 1)
- ⑦人に自分の気持ちを伝えたり、相手の意見を聞いたりすることができる  
(5. 4. 3. 2. 1)
- ⑧ほしいもの、してほしいことを本人に頼むことができる  
(5. 4. 3. 2. 1)
- ⑨夢中になっていることでも、時間がくれば、次のことに移ることができる  
(5. 4. 3. 2. 1)
- ⑩どんなことに対しても、自信を持って取り組むことができる  
(5. 4. 3. 2. 1)
- ⑪わからないことについて自分で調べることができる  
(5. 4. 3. 2. 1)
- ⑫反打ちとけんかしても、謝るなどして仲直りができる  
(5. 4. 3. 2. 1)
- ⑬反打ちから嫌なことをされたら、「いや」「やめて」などと言える  
(5. 4. 3. 2. 1)
- ⑭自分がやりたいと思っても、人の嫌がることはがまんできる  
(5. 4. 3. 2. 1)
- ⑮一度始めたことは最後までやり通すことができる  
(5. 4. 3. 2. 1)

## <質問番号と対応する項目>

- ①好奇心
- ②協調性
- ③自己主張
- ④自己抑制
- ⑤がんばる力
- ⑥好奇心
- ⑦協調性
- ⑧自己主張
- ⑨自己抑制
- ⑩がんばる力
- ⑪好奇心
- ⑫協調性
- ⑬自己主張
- ⑭自己抑制
- ⑮がんばる力

## <分析表の見方>

SD：標準偏差（数値のバラつき）

F値：分散分析（大きいほど有意差がある）

各質問の合計	参加者	事前(8/5)n18		事後(8/11)n18		追跡(9/12)n17		F値	p値	$\eta^2$	多重比較
		平均値	SD	平均値	SD	平均値	SD				
	全体	60.11	9.60	67.29	4.44	64.65	6.48	4.45	0.017	0.154	pre<post1**
	好奇心	12.94	1.98	13.94	0.83	13.65	1.41	2.05	0.138	0.078	
	協調性	12.17	2.43	13.76	1.39	13.53	1.46	3.88	0.027	0.137	pre<post1*,pre<post2†
	自己主張	10.67	3.29	13.00	1.17	12.12	2.09	4.33	0.079	0.150	pre<post1**
	自己抑制	12.50	1.69	13.06	1.60	12.82	1.67	0.51	0.406	0.020	
	がんばる力	11.83	2.26	13.53	1.33	12.53	1.33	4.34	0.018	0.151	pre<post1**
各質問	1	4.17	0.79	4.88	0.33	4.59	0.71	5.46	0.007	0.182	pre<post1**
	2	4.17	0.92	4.82	0.39	4.65	0.61	4.36	0.018	0.151	pre<post1*,pre<post2†
	3	3.50	1.29	4.53	0.51	3.94	0.90	4.99	0.011	0.169	pre<post1**
	4	4.11	0.76	4.29	0.69	4.47	0.62	1.15	0.317	0.046	
	5	4.06	0.94	4.71	0.47	4.24	0.56	4.57	0.023	0.142	pre<post1*

p値：有意格差

$\eta^2$ ：効果量の大きさ

多重比較：事前・事後・追跡の効果量の比較（pre…事前の効果量、post…事後の効果量、post2…追跡の効果量）

Ex. pre < post … 事前と事後を比べると事後の方が効果量が大きく、有意差が見られる。

# 分析結果

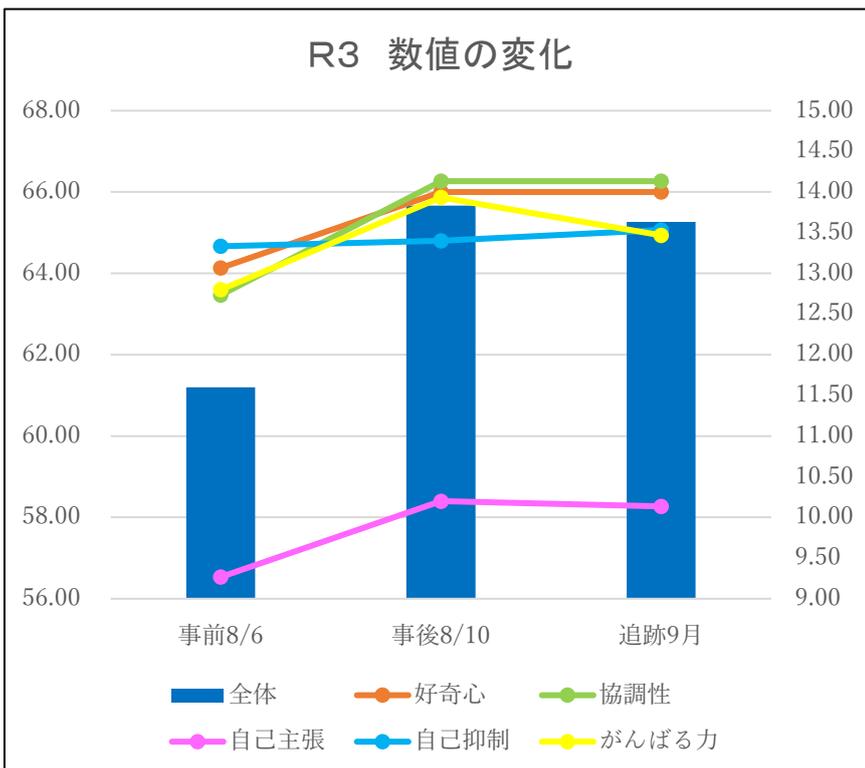
データ分析：信州大学教育学部 准教授 瀧 直也 氏

<令和3年度>

質問	N	事前8/6		事後8/10		追跡9月		F値	P値	$\eta^2$	多重比較
		平均値	SD	平均値	SD	平均値	SD				
全体	15	61.20	7.52	65.67	8.47	65.27	8.20	1.41	0.256	0.063	
好奇心	15	13.07	1.58	14.00	1.25	14.00	1.36	2.21	0.123	0.095	
協調性	15	12.73	1.94	14.13	1.64	14.13	1.25	3.66 *	0.034	0.148	pre<post1†,pre<post2†
自己主張	15	9.27	2.76	10.20	2.98	10.13	2.45	0.54	0.586	0.025	
自己抑制	15	13.33	1.95	13.40	2.29	13.53	2.20	0.03	0.967	0.002	
がんばる力	15	12.80	2.04	13.93	1.71	13.47	2.20	1.22	0.304	0.055	
1	15	4.53	0.74	4.73	0.46	4.73	0.46	0.62	0.544	0.029	
2	15	4.27	0.80	4.87	0.52	4.87	0.35	5.25 **	0.009	0.200	pre<post1*,pre<post2*
3	15	4.07	0.88	4.60	0.63	4.47	0.83	1.85	0.170	0.081	
4	15	4.40	1.12	4.47	1.06	4.53	1.06	0.06	0.945	0.003	
5	15	4.47	0.74	4.80	0.41	4.47	0.83	1.17	0.319	0.053	
6	15	4.53	0.64	4.93	0.26	4.80	0.41	2.88 †	0.067	0.121	pre<post1†
7	15	4.00	0.65	4.67	0.62	4.47	0.83	3.50 *	0.039	0.143	pre<post1*
8	15	4.13	0.83	4.40	0.91	4.47	1.06	0.53	0.593	0.025	
9	15	4.33	0.82	4.20	1.01	4.33	1.23	0.08	0.921	0.004	
10	15	4.00	1.07	4.47	0.92	4.40	1.12	0.89	0.420	0.040	
11	15	4.00	0.85	4.33	0.82	4.47	0.92	1.17	0.320	0.053	
12	15	4.47	0.92	4.60	0.74	4.80	0.41	0.82	0.449	0.037	
13	15	4.27	0.59	4.80	0.41	4.60	0.83	2.70 †	0.079	0.114	pre<post1†
14	15	4.60	0.63	4.73	0.46	4.67	0.62	0.20	0.818	0.010	
15	15	4.33	0.90	4.67	0.72	4.60	0.63	0.81	0.453	0.037	

†p<.10 \*p<.05 \*\*p<.01 \*\*\*p<.001

$\eta^2 \geq 0.14$ 効果量大、 $\eta^2 \geq 0.06$ 効果量中  $\eta^2 \geq 0.01$ 効果量小



<分析と考察>

「協調性」には5%水準で有意差が確認できた。関連する質問2「友だちと協力して取り組むことができる」は事前から事後にかけて有意差が出ており、キャンプで向上したものが追跡後も継続していたと言える。

また、効果量（ $\eta^2$ ）では、全体でも中程度の効果があったと言え、構成因子の「好奇心」「協調性」にも中程度の効果があったという結果が出た。

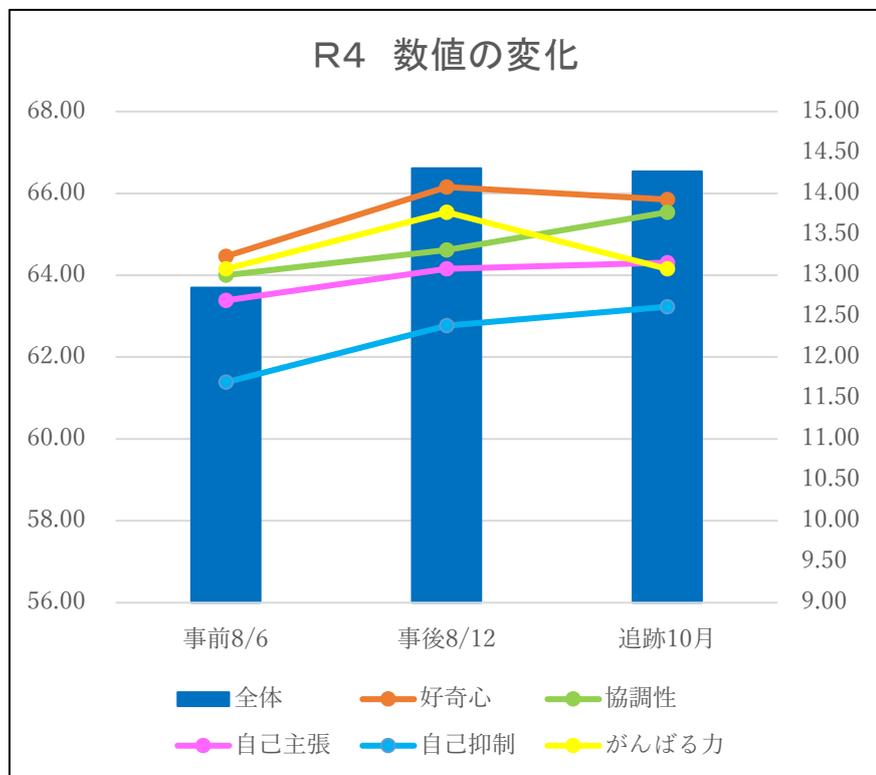
以上の結果から、令和3年度は「生きる力」全体の向上にある程度の効果があったと言える。

<令和4年度>

質問	N	事前8/6		事後8/12		追跡10月		F値	P値	$\eta^2$	多重比較
		平均値	SD	平均値	SD	平均値	SD				
全体	13	63.69	7.77	66.62	5.20	66.54	7.58	0.75	0.481	0.040	
好奇心	13	13.23	1.48	14.08	1.12	13.92	1.19	1.63	0.209	0.083	
協調性	13	13.00	1.78	13.31	1.18	13.77	1.42	0.89	0.421	0.047	
自己主張	13	12.69	2.46	13.08	2.47	13.15	1.99	0.15	0.863	0.008	
自己抑制	13	11.69	2.02	12.38	1.94	12.62	1.98	0.77	0.472	0.041	
がんばる力	13	13.08	1.85	13.77	1.36	13.08	2.36	0.57	0.568	0.031	
1	13	4.23	0.73	4.85	0.38	4.69	0.48	4.46 *	0.019	0.198	pre<post1*,pre<post2†
2	13	4.31	0.95	4.46	0.52	4.69	0.48	1.05	0.362	0.055	
3	13	4.08	1.04	4.54	0.66	4.38	0.65	1.11	0.340	0.058	
4	13	4.15	0.69	4.00	0.71	4.15	0.80	0.19	0.827	0.010	
5	13	4.46	0.78	4.62	0.51	4.38	0.96	0.30	0.741	0.017	
6	13	4.85	0.38	4.85	0.55	4.92	0.28	0.15	0.864	0.008	
7	13	4.31	0.85	4.46	0.66	4.38	0.65	0.15	0.865	0.008	
8	13	4.31	0.75	4.15	1.34	4.31	0.95	0.09	0.910	0.005	
9	13	3.38	0.96	4.08	0.76	4.15	0.69	3.55 *	0.039	0.165	pre<post1†,pre<post2†
10	13	4.38	0.77	4.46	0.66	4.31	0.95	0.12	0.887	0.007	
11	13	4.15	0.80	4.38	0.65	4.31	0.85	0.30	0.743	0.016	
12	13	4.38	0.77	4.38	0.77	4.69	0.63	0.78	0.466	0.042	
13	13	4.31	0.85	4.38	1.12	4.46	1.13	0.07	0.932	0.004	
14	13	4.15	0.80	4.31	0.75	4.31	0.75	0.17	0.841	0.010	
15	13	4.23	0.83	4.69	0.63	4.38	0.87	1.17	0.323	0.061	

†p<.10 \*p<.05 \*\*p<.01 \*\*\*p<.001

$\eta^2 \geq 0.14$ 効果量大、 $\eta^2 \geq 0.06$ 効果量中  $\eta^2 \geq 0.01$ 効果量小



<分析と考察>

全体では、事前から事後、事前から追跡にかけて平均値は上がっているが、有意差は見られなかった。

「好奇心」においては中程度の効果 ( $\eta^2 \geq 0.06$ ) があることが確認できた。質問ごとに見ると、質問1「新しいことにワクワクして取り組むことができる」が5%水準で有意差が見られ、効果量大いことが確認できる。キャンプ中に様々なことに興味をもち、体験したことで、普段の生活の中でも新しいことに取り組む気持ちが芽生えたものとする。

また、「自己抑制」の質問9「夢中になっていることでも、時間がくれば、

次のことに移ることができる」では、5%水準で有意差が見られ、効果量も大きい ( $\eta^2 \geq 0.14$ ) ことが分かる。キャンプを通じて芽生えたものが、普段の生活の中でさらに成長したものとする。

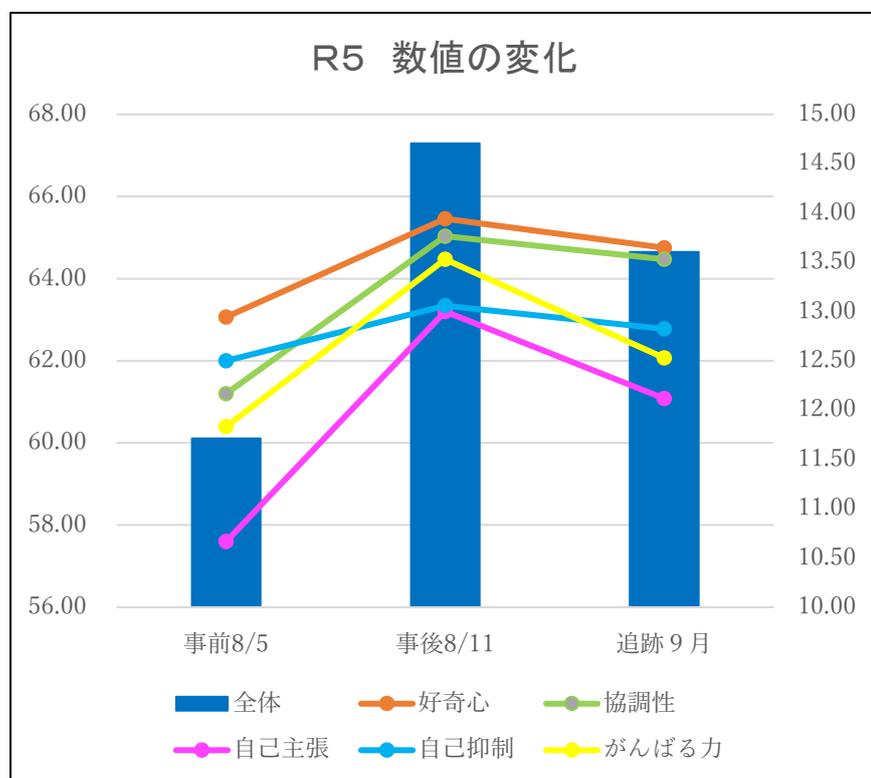
以上の結果から、令和4年度は特筆して向上した項目はなかったものの、事業の効果が普段の生活の中でも生かされていることが分かったと言える。

<令和5年度>

質問	事前8/5		事後8/11		追跡9/12		F値	p値	$\eta^2$	多重比較
	平均値	SD	平均値	SD	平均値	SD				
全体	60.11	9.60	67.29	4.44	64.65	6.48	4.45	0.017	0.154	pre<post1**
好奇心	12.94	1.98	13.94	0.83	13.65	1.41	2.06	0.138	0.078	
協調性	12.17	2.43	13.76	1.39	13.53	1.46	3.88	0.027	0.137	pre<post1*,pre<post2†
自己主張	10.67	3.29	13.00	1.17	12.12	2.09	4.33	0.019	0.150	pre<post1**
自己抑制	12.50	1.69	13.06	1.60	12.82	1.67	0.51	0.606	0.020	
がんばる力	11.83	2.26	13.53	1.33	12.53	1.33	4.34	0.018	0.151	pre<post1**
1	4.17	0.79	4.88	0.33	4.59	0.71	5.46	0.007	0.182	pre<post1**
2	4.17	0.92	4.82	0.39	4.65	0.61	4.36	0.018	0.151	pre<post1*,pre<post2†
3	3.50	1.29	4.53	0.51	3.94	0.90	4.99	0.011	0.169	pre<post1**
4	4.11	0.76	4.29	0.69	4.47	0.62	1.18	0.317	0.046	
5	4.06	0.94	4.71	0.47	4.24	0.56	4.07	0.023	0.142	pre<post1*
6	4.89	0.32	4.82	0.39	4.82	0.53	0.14	0.869	0.006	
7	3.78	0.94	4.53	0.51	4.18	0.73	4.36	0.018	0.151	pre<post1*
8	3.22	1.40	4.24	0.75	3.76	0.83	4.14	0.022	0.145	pre<post1*
9	3.94	0.87	4.35	0.61	4.00	0.87	1.35	0.270	0.052	
10	3.72	1.13	4.24	0.66	4.00	0.61	1.63	0.206	0.062	
11	3.89	1.23	4.24	0.56	4.24	0.75	0.87	0.426	0.034	
12	4.22	0.94	4.41	0.71	4.71	0.47	1.89	0.161	0.072	
13	3.94	1.00	4.24	0.83	4.41	0.87	1.19	0.312	0.046	
14	4.44	0.70	4.41	0.71	4.35	0.61	0.08	0.922	0.003	
15	4.06	0.73	4.59	0.51	4.29	0.69	2.96	0.061	0.108	pre<post1*

†p<.10 \*p<.05 \*\*p<.01 \*\*\*p<.001

$\eta^2 \geq 0.14$ 効果量大、 $\eta^2 \geq 0.06$ 効果量中  $\eta^2 \geq 0.01$ 効果量小



<分析と考察>

事前と事後の結果を比較すると、事業を通してどの項目も数値が上昇していることが分かる。「生きる力」全体において、有意な向上が見られた。

項目別に見ると「協調性」「自己主張」「がんばる力」において、有意な向上が見られた。さらに、「協調性」については、事前と追跡にも有意差が見られ、事前から事後に上昇した値が追跡時にも継続していることが分かった。

「好奇心」についてはほとんど変化が見られなかったものの、事前から事後にかけて数値は上昇し、追跡時にも同程度の値であることが分かる。

「自己抑制」についてはほとんど変化

が見られなかったものの、高い数値を維持していることが分かる。

以上の結果から、令和5年度は「学びに向かう力」全体の向上が見られ、特に「協調性」「自己主張」「がんばる力」の向上に効果があったと言える。

## 分析結果を基にした3年間の考察

### ○「学びに向かう力、人間性等」全体の向上

どの年度においても、事前と事後を比べたときに、「全体」の数値が上昇している。キャンプ期間中に行った個々のプログラムやプログラム同士のつながりが効果的に働き、参加者の「学びに向かう力、人間性等」の向上につながったといえる。

加えて、事前と追跡と比べたときも同様に数値が上昇している。サマーキャンプを通して得た経験が、キャンプ後1か月が経っても参加者の中で生き続け、普段の生活の中でも生かされているといえる。

### ○参加者の「好奇心」の刺激

「好奇心」「協調性」「自己主張」「自己抑制」「がんばる力」の向上を項目別で見ると、年度によって違いが見られる。令和3年は「好奇心」「協調性」、令和4年は「好奇心」、令和5年は「協調性」「自己主張」「がんばる力」に中程度以上の有意差が見られた。

3年間の調査によって、共通点を見いだすことはできなかったものの、おおよそどの項目にも数値の上昇が見られた。特に「好奇心」については、どの年度も比較的高い水準で数値が変動している。雄大な自然に囲まれた環境下で行ったテント泊や野外炊飯、登山等の非日常体験が、参加者の好奇心を刺激したと推察する。

### ○プログラムの変遷から見る「協調性」「自己主張」の向上

令和3年、5年で有意差を確認できたのが「協調性」である。特に令和5年は追跡調査時にも有意差が見られた。この年は、前の2年に比べ、リフレッシュタイム時に班で協力して行う活動を充実させた。登山に向けて互いを理解したり、班の結束力を高めたりすることをねらったことが効果的に働いたといえる。プログラムを工夫することで、日常的な「協調性」を育むのに大きな影響を与えたといえる。

同様のことが「自己主張」にもいえる。「自己主張」の数値が最も上昇したのが令和5年であった。令和3・4年時は初日に設定していた班の登山目標設定の時間を、3日目のリフレッシュタイム時に移した。これは班の協調性や、互いの理解度をある程度高めた上で登山目標を話し合う方が相手の考えを受け止めつつ自分の主張をしやすくなるのではないかと考えたためである。結果として、班の話し合いは活性化し、登山当日も積極的に声を掛け合う姿が多く見られた。

### ○自然体験活動と「がんばる力」

令和3年は下山時に、令和5年は登山時に天候が崩れた。冷たい雨や風に晒され、厳しい登山となった。それでも参加者たちは集中力を切らすことなく登山に臨み、互いを鼓舞するように声を掛け合った。

自然体験活動は天候の影響を受けることが多分にあるものの、目標に向けてがんばった結果（令和3年は「最後の野外炊飯」、令和5年は「ご来光」）の達成感は大きい。令和5年の「がんばる力」に有意差が見られたのも、このことが関わっていると推察する。

天候不順は安全面でのリスクを増加させるため、十分な配慮や計画、装備等のリスクマネジメントが必要である一方、「がんばる力」を育てるエッセンスにもなるといえる。

# 活動意識の変容

「学びに向かう力、人間性等」の調査と同時に、参加者の活動意識の変容を測るため、1日の活動に対する意識を自己採点する形で調査を行い、事業全体の意識の変容を観察した。最終日はキャンプ全体を振り返って回答した。

令和3・4年度は【プリント1】を使用し、毎日の意識を点数化した。ただ、この方法だと早い段階で意識が高まり、数値が頭打ちになった際（特に令和4年度）に、その後の参加者の意識の変容を追うことができなかった。そのため、令和5年度は点数化するのを初日のみとし、2日目以降は前日と比較して意識は高まったか（-2点～+2点）を点数化する形を取った。また、日ごとに振り返る内容を変え、その日1日の振り返りの深化や次の日の活動への意識づけができるようにした。使用したのが【プリント2】である。これにより、最終日まで参加者の意識の変容を細かく追うことをねらった。

## 【プリント1】

(令和3・4年度および令和5年度初日に使用)

8月7日(日) 名前[ ]

		すごく あてはまる	わりと あてはまる	あてはまる	あまり あてはまらない	まったく あてはまらない
1	自分から友達に考えや思いを伝えることができたと思う	⑤	④	③	②	①
2	グループの友だちの考えを聞き、理解したり、一緒に考えたりしたと思う	⑤	④	③	②	①
3	グループの目標達成のために積極的に活動することができたと思う	⑤	④	③	②	①
4	これまでの生活で自分が気付いたり、考えたりしたことを今日の活動で生かすことができたと思う	⑤	④	③	②	①
5	自分の立てた目標に向かって活動することができたと思う	⑤	④	③	②	①

合計 点

○ 今日の自分はどうか?一日を振り返って感想を書きましょう

○ 仲間とのかかわりの中でうれしかったことや印象に残ったことを書きましょう

○ 明日の目標を書きましょう

☆ スタッフから

## 【プリント2】

(令和5年度2日目以降に使用)

一日のまとめ  
～明日の自分の成長のために～ 

8月10日(木) 名前[ ]

今日の自分と昨日の自分と比べてみよう!

	昨日より かなりできた	昨日より 少しできた	昨日と同じ	昨日より少し できなかった	昨日よりぜんぜん できなかった	
1	自分から友達に考えや思いを伝えることができたと思う	+2	+1	0	-1	-2
2	グループの友だちの考えを聞き、理解したり、一緒に考えたりしたと思う	+2	+1	0	-1	-2
3	グループの目標達成のために積極的に活動することができたと思う	+2	+1	0	-1	-2
4	これまでの生活で自分が気付いたり、考えたりしたことを今日の活動で生かすことができたと思う	+2	+1	0	-1	-2
5	自分の立てた目標に向かって活動することができたと思う	+2	+1	0	-1	-2

○ 上の数字にした理由を書きましょう。

○ 朝で立てた登山の目標は達成できましたか、ふり返ってみよう。

○ 最後の夜（BBQ、焚火）を過ごした感想を書きましょう。

☆ スタッフから

### <【プリント1】の選択肢>

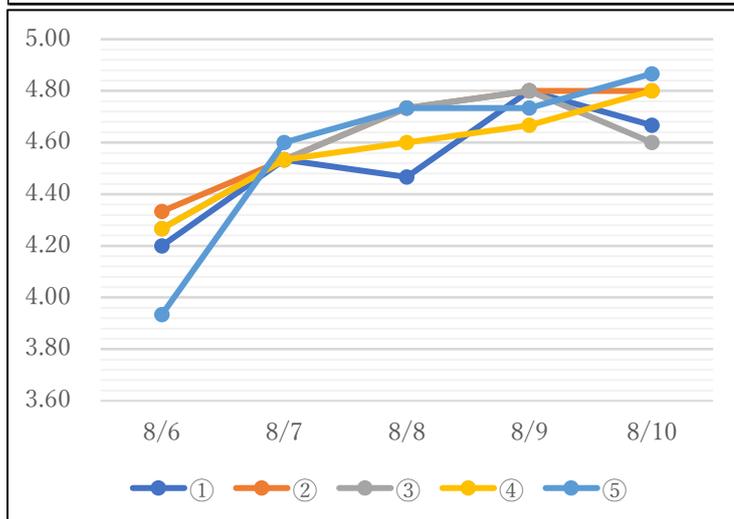
5…すごく当てはまる    4…わりと当てはまる    3…当てはまる  
2…あまり当てはまらない    1…まったく当てはまらない

### <【プリント2】の選択肢>

+2…前日よりかなりできた    +1…前日より少しできた    0…昨日と同じ  
-1…昨日より少しできなかった    -2…昨日よりぜんぜんできなかった

<令和3年度>

質問項目	5から1までの選択肢の平均値				
	8/6	8/7	8/8	8/9	8/10
1 自分から友だちに考えや思いを伝えることができたと思う。	4.20	4.53	4.47	4.80	4.67
2 グループの友だちの考えを聞き、理解したり、一緒に考えたりしたと思う。	4.33	4.53	4.73	4.80	4.80
3 グループの目標達成のために、積極的に活動することができたと思う。	4.27	4.53	4.73	4.80	4.60
4 これまでの生活で自分が気づいたり、考えたりしたことを今日の活動で生かすことができたと思う。	4.27	4.53	4.60	4.67	4.80
5 自分の立てた活動の目標に向かって活動することができたと思う。	3.93	4.60	4.73	4.73	4.87

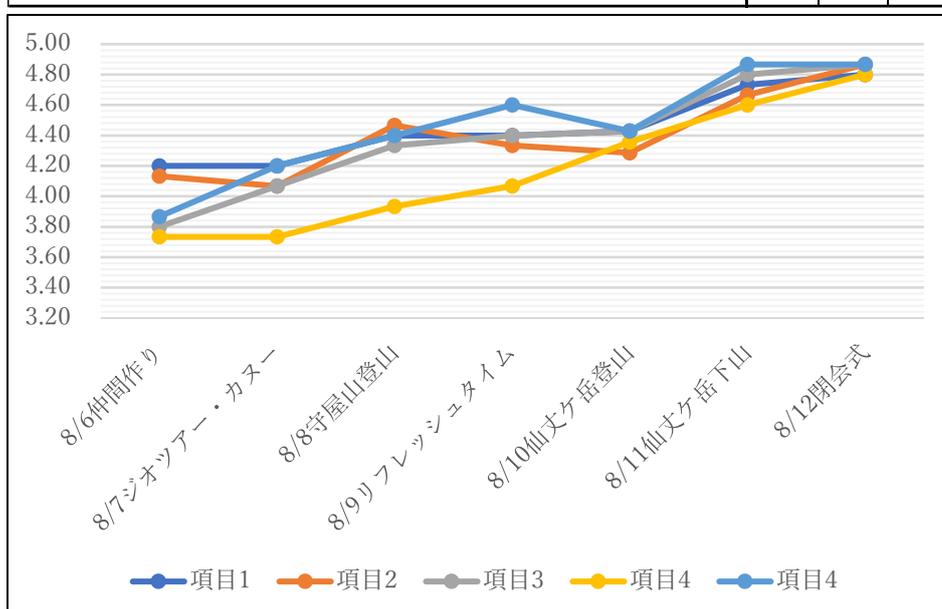


主な活動

- 8/6 出会い
- 8/7 守屋山登山トレーニング
- 8/8 木曽駒ヶ岳登山
- 8/9 木曽駒ヶ岳下山
- 8/10 閉会式

<令和4年度>

質問項目	5から1までの選択肢の平均値							
	8/6	8/7	8/8	8/9	8/10	8/11	8/12	
1 自分から友だちに考えや思いを伝えることができたと思う。	4.20	4.20	4.40	4.40	4.43	4.73	4.80	
2 グループの友だちの考えを聞き、理解したり、一緒に考えたりしたと思う。	4.13	4.07	4.47	4.33	4.29	4.67	4.87	
3 グループの目標達成のために、積極的に活動することができたと思う。	3.80	4.07	4.33	4.40	4.43	4.80	4.87	
4 これまでの生活で自分が気づいたり、考えたりしたことを今日の活動で生かすことができたと思う。	3.73	3.73	3.93	4.07	4.36	4.60	4.80	
5 自分の立てた活動の目標に向かって活動することができたと思う。	3.87	4.20	4.40	4.60	4.43	4.87	4.87	

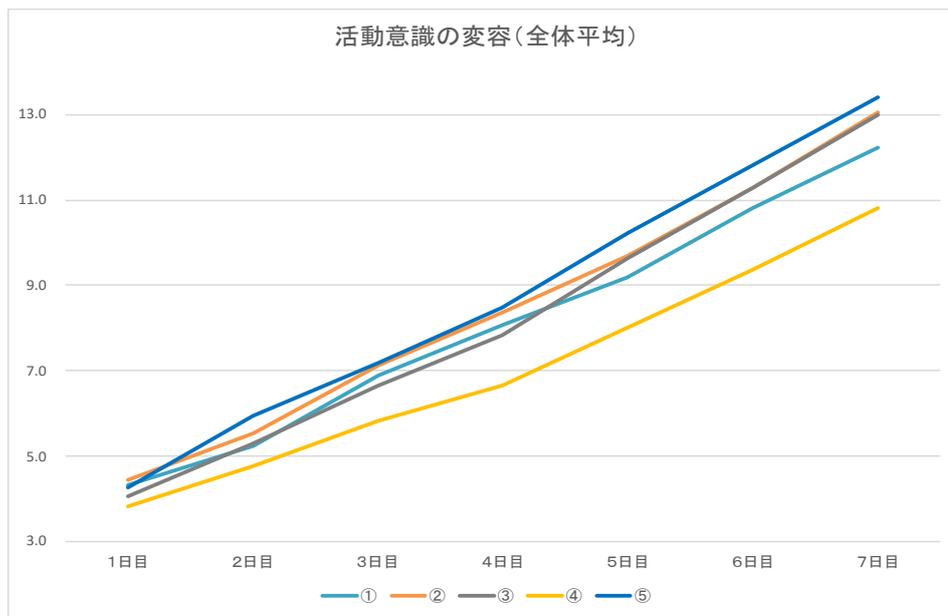


主な活動

- 8/6 仲間作り
- 8/7 ジオツアー・カヌー
- 8/8 守屋山登山トレーニング
- 8/9 リフレッシュタイム
- 8/10 仙丈ヶ岳登山
- 8/11 仙丈ヶ岳下山
- 8/12 閉会式

<令和5年度> ※2日目以降は前日との比較であるため、数値が前2年と比べて大きくなっている。

系列	質問項目	選択肢の平均値						
		8/5	8/6	8/7	8/8	8/9	8/10	8/11
①	自分から友だちに考えや思いを伝えることができたと思う。	4.3	5.2	6.9	8.1	9.2	10.8	12.2
②	グループの友だちの考えを聞き、理解したり、一緒に考えたりしたと思う。	4.4	5.5	7.1	8.4	9.7	11.3	13.1
③	グループの目標達成のために、積極的に活動することができたと思う。	4.1	5.3	6.6	7.8	9.6	11.3	13.0
④	これまでの生活で自分が気づいたり、考えたりしたことを今日の活動で生かすことができたと思う。	3.8	4.8	5.8	6.6	8.0	9.4	10.8
⑤	自分の立てた活動の目標に向かって活動することができたと思う。	4.3	5.9	7.2	8.5	10.2	11.8	13.4



#### 主な活動

- 8/5 仲間作り
- 8/7 守屋山登山トレーニング
- 8/8 リフレッシュタイム
- 8/9 登山準備・目標確認
- 8/10 仙丈ヶ岳登山
- 8/11 仙丈ヶ岳下山
- 8/12 閉会式

## 考 察

項目1についてはどの年度も緩やかに上昇を続けている。ともに過ごす時間が長くなるにつれて、コミュニケーションが図られるようになったからだと考える。

項目2については、令和4年は守屋山登山トレーニングがあった3日目に、令和5年はリフレッシュタイムを設けた3日目に大きく上昇している。特に令和4年時には「そんなに話せていなかった仲間といっぱい話せた」「登山中に班の人としゃべったり、笑いながらお昼を食べたりしてすごく楽しかった」といった声が参加者から聞かれた。人間関係の基礎ができた上で登山トレーニングを行ったことは、仲間の声を聞いたり、一緒に考えたりする意識をさらに高めるきっかけになったと考える。

項目3については、どの年も登山チャレンジ時（令和3年：木曾駒ヶ岳登山、令和4・5年：仙丈ヶ岳登山）に大きく上昇している。事前に立てていた班の登山目標を達成するために、登山に集中したり、仲間同士励まし合ったりする姿が数多く見られた。前日までに芽生えた仲間意識が、目標達成への意識をより高める要因になったと考える。また、同様の傾向が項目5にも見られることは、登山講義や登山チャレンジが効果的に働き、参加者の目標達成への意識を高めることにつながったと考える。

項目4については、どの年も最終日まで上昇し続けている。毎日のふり返しにおいて、班の目標やその日1日の自分の中での気づきを大切にすることで、その後の行動に影響を与えたものと考えられる。また、登山講義で得た知識や技術を登山チャレンジに生かすという、実践の場があったことも要因として考えられる。

# 信州高遠サマーキャンプ 成果と課題

## <成果>

### ○学びに向かう力、人間性等の向上

本報告書内で、「学びに向かう力、人間性等」が向上し、参加者の活動意識が変容していったことに触れた。「出会い」「協力」「挑戦」「旅立ち」と4つのステージを設け、各ステージのねらいを設定し、体系的にプログラムを実施したことが、「学びに向かう力、人間性等」の向上につながったといえる。

### ○「協力」のステージの工夫・充実による好影響

サマーキャンプ3年間の変遷の中で、最も工夫・充実が図られたのが「協力」のステージといえる。「協力」のステージにおけるねらいや活動プログラムを年々充実させていったことと、「学びに向かう力、人間性等」の向上や活動意識の変容の数値が上昇していったことには関連性があると考えられる。メインプログラムである、「登山チャレンジ」に向かう段階の活動を充実させることが、メインプログラムの成功に影響を与えることが分かった。

### ○適度な負荷と安全性の確保がプログラム成功の鍵

発達段階に応じて、適度な負荷を参加者にかけることが「学びに向かう力、人間性等」の向上に関わっていることが分かった。加えて、令和5年の登山チャレンジ前日に、登山口近くの山小屋で宿泊したように、気力、体力の充実を図り、高地順応、時間的なゆとりの確保などの安全面も確保することも重要である。適度な負荷と安全性の確保のバランスを取りながら日程を考えることが、プログラム成功の鍵であるといえる。

## <課題>

### ●令和6年度中止によるデータの不足

令和6年度も信州高遠サマーキャンプを実施する予定であったが、諸々の事情で中止することとなった。山小屋泊を入れることを前提としているため、1回の参加者受け入れに限界があり、数年の積み重ねをもって信頼あるデータ確保を目指していたが、当初予定よりも少ないデータでの報告書作成になってしまった。

### ●「自己抑制」の有意差が見られなかったことが示すものとは

「学びに向かう力、人間性等」の5項目のうち、「自己抑制」について、3年間の調査では有意差が見られなかった。“自分の欲求を抑えることで、仲間と協力する”という側面を考えると、「自己抑制」は「協調性」の一部ではないかという考察も挙げた。「自己抑制」がサマーキャンプの中で育てるべき力なのか、他の4項目と並び立つ力であったのかなど、様々な角度から検証を進めていく必要がある。

### ●登山保険への加入

登山保険への加入を任意とした（すでに加入している参加者がいる可能性を鑑みた）が、かえって「もしものときの不安」を残してしまう形になった。登山を伴う事業実施の際は、参加費に保険料を盛り込むことで、オーダーメイド型の保険に全員が加入している状態を作りたいことを検討したい。

## 信州高遠サマーキャンプ報告書 あとがき

国立信州高遠青少年自然の家着任4年目を迎え、事前踏査、事業当日とこれまで7回にわたり、スタッフとともに南アルプス仙丈ヶ岳の頂上を踏んできた。報告書にも記載があるが、過去のサマーキャンプを振り返ると令和3年度は、未だコロナ禍ということも有り、感染リスクを抱えながらの実施であり、ロープウェイを使い子供たちに体力的に負荷の少ない中央アルプス登山であった。令和4年度もコロナとの闘いは続いており、感染対策を踏まえ、日程の短縮、マスクの着用に加え自然の家での寝泊まりは、ソロテント泊という決断のもと、実施への道筋をつけた。令和5年度から通常に近い状況で実施した。

なお、今回の調査には反映されていないが、直近で実施した令和7年度のサマーキャンプは、これまでの集大成とすべく、「出会い」「協力」のステージとそれ以降の「挑戦」「旅立ち」のステージが、1泊2日のプレキャンプと4泊5日のサマーキャンプとに分ける試みで実施した。

信州高遠ではこれまでのサマーキャンプで、何十人もの子供たち、そしてサポートするボランティアスタッフを頂上に立たせてきた。この南アルプスの女王と呼ばれる仙丈ヶ岳へは、幾度となく足を運んできたが、毎度違う表情、景色を見せてくれる。山の表情は、いつ行っても同じということはなく、季節や天候によって様々に表情を変えるが、この山に挑む子供たちも同様に毎年違った表情を見せてくれる。

とある夏に参加したAさんは仙丈ヶ岳の登り始めから、「足が痛い、もう登りたくない、親に騙されて参加した」（もちろん足が痛いということはないようだが）と数歩進んで座り込む、の繰り返しで周りの子供たちの士気を下げようような行動に私もたまりかね、最後尾で「ここで私と一緒に下山するか、それとも頑張ってみんなと頂上を目指すのか」と尋ねたところ、彼女の返事は「もう少しみんなと頑張る」と。周りの仲間も励まし、楽しげな会話に巻き込みながら、何とか山小屋にたどり着き、最後は仲間たちと元気に登頂することができた。自分なりに一つの大きな目標をやり遂げたその後は、人が変わったように前向きな姿勢でキャンプ最終日を迎えることができたのである。この年も雨と風の中での登山であり、初めて三千メートル級の山を登る子供たちにとっては厳しい環境下であり、そういう気持ちが生まれても仕方がないのかもしれない。

実は子供たちの心は天候にも大きく左右され、少なからず調査結果にも影響を与えてしまうこともある。

またある年のエピソードを紹介すると、視界もなく暗く濃い霧と強風で凍える中、頂上直下でご来光を待っていたが、何十分たっても霧は晴れず、日の出を拝めずにいた。天候の回復が見込めず、あきらめかけたその時に突然視界が開け、雲の上から太陽が昇り、子供たちの大歓声が沸き上がったのである。前日の登山でも雨と風の中、凍えながらの登山であったが、最後に報われた気がしたものである。頑張る子供たちを神様は見捨てなかったと感じた

瞬間であった。

実はこのような外的な環境によっても、調査結果の効果量に影響が出る可能性も考慮すべき点であるかもしれない。今回データの的にも人間性としての成長が見られ、長期キャンプの効果が表れている結果となったが、それ以上にデータでは測ることができないものも子供たちに一つの力として実についたのではと感じた経験であった。

子供たちは長期キャンプにおいて大人とのかかわり、仲間同士の付き合いの中で次第にコミュニケーション力を身に付け、キャンプの中で出会うトラブルをうまく乗り越え、生きる力を身に付けながら、大きく成長していくことが示された調査となった。その後も長期キャンプにおいて得た学びを各家庭、学校で発揮してもらい、地域社会で活躍できる青少年に成長して欲しいと願う。

結びにサマーキャンプの実施にあたり、子供たちに登山について基本的な知識をご講義いただきました長野県山岳センター所長傘木靖様、企画委員として携わっていただきました南信州山岳ガイド協会の笹川隆広様、調査・分析においてもご協力頂いた信州大学教育学部准教授瀧直也様には多大なるご支援・ご協力をいただきました。また、近隣の関係団体の皆様にサマーキャンプ実施にあたり、ご協力いただきましたこと、心より感謝申し上げます。

国立信州高遠青少年自然の家 所長 梅津 孝一